

学校運営協議会 会議実施報告書

このことについて、「岐阜県立学校における学校運営協議会の設置等に関する規則」第8条第1項に基づき、次のとおり学校運営協議会を開催しましたので、その概要について報告します。

- 1 会議名 岐阜高等学校 学校運営協議会 (第3回)
- 2 開催日時 令和8年2月2日(月) 13:00～15:00
- 3 開催場所 岐阜高等学校大会議室
開催にあたり、委員による授業参観を実施した
- 4 参加者

会長	西津 貴久	岐阜大学 教授
副会長	安田 洋一郎	本郷自治会 副会長
委員	伊在井みどり	岐阜県医師会 会長 (欠席)
	伊藤 知子	PTA会長
	高木 敏彦	岐阜県教育文化財団 理事長
	中村 こず枝	岐阜市保健衛生部長兼保健所長
学校側	小野 悟	校長
	瀨瀬 和也	事務部長
	田内 俊文	教頭
	高田 剛	教頭
	石川 翔太	教務部長
	伊藤 翼	生徒指導部長
	覺田 敬	進路指導部長

5 会議の概要(協議事項)

(1) 授業参観について

意見1: 理科の実験では複数の教員が授業に参加し、きめ細かな指導を行っている。生徒同士で解決できない課題が生じた際には、周囲の教員へ速やかに相談でき、効率的に学習を進められる体制が整っている。

意見2: 本校では実験の機会を多く設け、教科書や理論の学習にとどまらず、理解が深まりやすい指導を実践している。こうした学びにより、生徒の知識が定着しやすく、確かな力を育成する質の高い学習が実現している。

意見3: 数学では教師の一方的な説明に偏らず、生徒同士が教え合う学習を取り入れている。数学は得意・不得意の差が生じやすい科目だが、この取組みにより生徒同士が補い合い、学力差を効果的にカバーできている。こうした学び合いは生徒の高い学力を支える要因であり、学習の遅れを防ぐ指導にもつながっている。

(2) 今年度の取組み状況、成果と課題、来年度に向けての改善方策等について

意見 1 : 全体として数値目標を上回る成果が示されており、高く評価できる内容となっている。今後は細部の改善やさらなる前進にも取り組むことで、より一層の充実が期待される。

意見 2 : 部活動やさまざまな課外活動においても成果が現れており、生徒の努力の賜物であると同時に、その力を的確に引き出している教員の指導力によるものと評価できる。

意見 3 : 授業におけるタブレット端末の活用については、教科によって適性に差があるので、必要以上に数値にこだわる必要はないと考える。ICT 機器や AI に頼り切るのではなく、それらを活用しつつも、デジタルに依存しなくても学びを進められる力を育成してほしい。今後も偏りのないバランスの取れた指導を期待したい。

意見 4 : SNS をめぐる生徒のトラブルは高校に限らず大学でも発生しており、学校だけで対応できる問題ではない。安全な利用を促すためには、家庭の協力も不可欠であり、今後は家庭との連携の方法についても、より工夫を重ねていく必要がある。

意見 5 : 生徒にはさまざまなメディアから多様な情報が入る時代であり、学力の向上だけでなく、人間性を育む教育もますます重要になっている。こうした状況の中で、すべてを教員だけが担うのは負担が大きく、スクールカウンセラーなど生徒支援に関わる専門職と連携し、役割分担を図りながら、生徒を支えてほしい。

意見 6 : 4 月から自転車にも青切符制度が適用される。交通事故も増えていることから、ヘルメットを所持していても着用しない生徒が見られるため、引き続き着用指導が必要である。また、始業直前にスピードを上げて登校する姿も見受けられる。大きな事故につながらないよう、時間に余裕をもって登校する指導を含め、今後も安全面への丁寧な指導を継続してほしい。

意見 7 : プレコンセプションケアの推進に向け、生徒の健康に関する教育を引き続き充実させてほしい。将来にわたって健康に過ごすことは、進路選択や仕事での成功にも直結する重要な基盤である。高校生の段階から、自らの健康を守る知識や習慣を身につけていくことが大切であり、今後も継続的な指導をしてほしい。

6 会議のまとめ

- ・今年度の取組みについて多くの意見や助言を得た。これを踏まえ、次年度の学校運営に反映させていきたい。